

●季節は冬へ。静かな公園で探してみよう。

木々の葉も落ちてスッキリとした公園。静けさも相まって、鳥たちの鳴き声が響き渡ります。てくてくお散歩しながら、のんびりバードウォッチングも良いですね。

○ ①公方様の森に響くあの音

■森を歩いていると、「ココココ・・・」と、小気味よい音が聞こえてきます。アカゲラ、アオゲラなどキツツキ科の鳥が巣作りのために木をついている音です。これは「ドラミング」といい、1秒に約20回、1回毎に時速25kmで壁にぶつかる程の衝撃なんだとか。他の生き物なら耐えられないでしょうが、上手に衝撃を吸収できる体の仕組みなんだそうですよ。余談ですが、ゴリラが胸を叩くのも、同じくドラミングと呼びます。元は太鼓を叩くことの意味ですが、動物が鳴き声以外の方法で音をたてる動作全般のことを指します。



アカゲラ



②サザンカ



○ 花と鳥を同時に楽しむ

■花の少ない時期ですが、民家園をのぞいてみてください。オトメツバキの垣根の間、東側から入ると「サザンカ」が綺麗に咲いています。タイミングが合えば、花の蜜を吸いに来た「メジロ」に出会えるかもしれませんよ。スズメよりも小さく、約12cmほどの鳥ですが、比較的警戒心が薄いため、近くで観察や写真撮影がしやすく、かわいい姿をじっくり見ることができます。また、枝の上に押しあうように並んで止まる習性があることから「目白押し」という言葉の語源にもなっています。



メジロ



③メタセコイア

●この実 なんの実 不思議な実

この奇妙な形をした実は、並木道などに利用されることの多いメタセコイアの実です。直径約2cm程の大きさで、徐々に開く隙間から種子がこぼれます。このメタセコイアは、1939年に植物学者の三木茂博士が化石を発見し命名、1941年に新属として発表されました。絶滅したものと考えられていましたが、戦後になってから中国で現存が確認されたため「生きている化石」とも呼ばれます。その種子がアメリカを経由し、苗木となって日本へ渡り、博士が結成したメタセコイア保存会によって、日本各地へと広がりました。円錐の樹形と紅葉が美しく、今では全国各地でメタセコイア並木が見られるようになり、観光名所、自然景観として親しまれています。



モズ

○ 小さなハンター「モズ」

■秋から冬にかけ、木のてっぺんで「キー、キー、チキチキチキ」と高鳴きをして縄張り争いをするモズ。スズメより若干大きい程度の、見た目もかわいい鳥ですが、タカなどの様な鋭いカギ状のくちばしを持っていて、昆虫、両生類、爬虫類の他、小型の鳥や哺乳類を捕食するため、スズメ属ながら「小さな猛禽」と呼ばれています。また捕った獲物を木の枝などに突き刺す「モズの早糞（はやにえ）」と呼ばれる行動をするのも特徴です。これは食料の少ない冬の保存食と考えられています。また、カマキリの卵と同様に早糞の位置によって、その年の積雪量が予測できるという説もあります。

○ 熊笹ではなく隈笹です

■冬になると縁が枯れるクマザサ。この縁取りが歌舞伎のメイク「隈取（くまどり）」に似ていることが名前の由来です。熊の出るような場所に生えたり、熊が食べるという理由で、他の種や本種を「熊笹」と呼ぶこともありますが、正しくは「隈笹」です。古くから生薬としても利用され、その効能から現在でもクマザサ茶などで利用されています。



④クマザサ

●ちょっと寂しい冬の公園も楽しみ方はいろいろです。てくてく情報、次号もお楽しみに！